

体育・スポーツ・健康づくりの交流で地域を活性化する

# NITTAIDAI

# 自治体

## フォーラム2018

### REPORT

## NITTAIDAI

2018年  
**11月22日(木)**

会場：帝国ホテル 東京  
本館中2階 光の間

学校法人日本体育大学 法人事務局 総合企画部  
TEL: 03-3704-5203 FAX: 03-3704-3342



# 学校法人日本体育大学とともに これからの「体育・スポーツ・健康づくり」を 語り合い、学び合う

日本全体の人口減少や少子高齢化、厳しい財政事情とともに、  
経済のグローバル化の進展や新興国の台頭など、世界経済の環境変化が著しい昨今、  
「地方再生・創生」は国が掲げる重要課題です。  
学校法人日本体育大学が地方自治体と手を取り合い、  
体育・スポーツを通じた地域活性化に取り組みはや4年。  
その成果は着実に実を結び始めています。

## 式次第

- 16:00 開会
- 16:05 常務理事挨拶  
学校法人日本体育大学 常務理事 今村 裕
- 16:10 学長挨拶  
日本体育大学 学長 具志堅 幸司
- 16:15 セミナー
  - 1 基調講演 山梨県西八代郡市川三郷町 町長 久保 真一 氏
  - 2 事例発表① 山口県岩国市 スポーツ推進課課長 藤本 浩志 氏
  - 3 事例発表② 埼玉県桶川市 スポーツ振興課課長 小島 輝夫 氏
- 17:20 協賛企業説明  
大塚製薬株式会社 ニュートラシューティカルズ事業部  
東京支店所長 堀場 和夫 氏
- 17:35 特別講演  
自由民主党 幹事長 二階 俊博 氏
- 18:10 懇親会  
【挨拶・乾杯】学校法人日本体育大学 常務理事 今村 裕  
【中 締】日本体育大学荏原高等学校 校長 松田 清孝



## 特別講演

日本体育大学はさらに国際的に飛躍し、  
各方面へ活躍の場を広げていこう

自由民主党 幹事長 二階 俊博 氏

参加者のみなさまのそうそうたる顔ぶれを見ますと、日本体育大学が大きく飛躍している様子がうかがえます。スポーツや健康づくりで地域を活性化することは、日本全土を元気にすることになるでしょう。この会合には出席が叶わなかった松浪理事長ですが、日本の教育、大学教育について非常に情熱を持っておられ、体育大学の真髄である「考え、行動する」を実践されています。北海道にも高等支援学校を作られましたね。地元のみならず喜んでおられるようで、それが日本体育大学の発展につながっているのでしょう。北海道にただ学校を作るだけではなく、体育・スポーツとの関連性を求めることによって双方が発展していくことができる。そう考えて行動される姿を、私は大したものだという思いで見えております。今後も日本体育大学が発展していくため、私どもの立場で後ろから目立たないように支援していく所存です。



## 常務理事挨拶

体育・スポーツ・健康を通じて  
地域の発展振興に寄与し、平和と安定の礎となる

学校法人日本体育大学 常務理事 今村 裕

本学はアジア最古の体育大学として127年目を迎え、大学法人としては初めての特別支援学校を設置いたしました。共生社会の実現に向け、私どもがやらなくてはならない教育分野と捉え、今最も力を入れております。そして、2020年のオリンピック・パラリンピックで結果を残すことだけに留まらず、本日のフォーラムを通してお集まりいただいた55の自治体のみなさまと連携し、本学のブランド力と全国で活躍する卒業生のネットワークで、微力ではありますが、地方が元気になるよう貢献をしていきたい。その積み重ねが、やがて平和と安定の礎になるのではないかと思います。本日もお集まりの方々のように屋台骨を支える力が大事だと思います。今後も松浪理事長と力を合わせ、少しでも明るい話題をこの会で提供することができれば幸いです。



## 基調講演

### 職員一人ひとりの志の強さで、 地域社会の発展を目指す

山梨県西八代都市川三郷町 町長 久保 真一 氏

市川三郷町は、甲府盆地の南西に位置し、四季折々の自然が楽しめる四尾連湖や芦川溪谷、甲斐源氏発祥の記念碑が立つ桜の名所平塩の岡、市川代官所跡、市川團十郎発祥の地である歌舞伎文化公園、「大塚にんじん」や「甘々娘(とうもろこし)」に代表される農産物、和紙、はんこなどの地場産業など、町には誇れる資源が多々あります。富士川の「神明の花火大会」は、江戸時代に日本三大花火大会の一つと称された歴史があり、毎年2万発以上も花火が披露され、一流の花火師20人が選ぶNo.1の花火大会としてテレビ報道をしていただきました。人口は1万6000人ほど、面積は約75km<sup>2</sup>の小さな町です。人口数の減少や地域経済の停滞など厳しい状況のなかで、

日本体育大学と協定を締結させていただき、職員一人ひとりの志の強さを力として、町が発展する自主独立の精神をご指導いただきました。その後、町財政健全化に向けて懸命に取り組み、着実に成果を遂げたため、今では多くの町民から「町が変わってきたのではないか」という言葉をいただけるようになりました。日本体育大学の先生方が、本町の職員のやる気を引き出していただいたおかげだと思っております。現在は、自然・歴史・文化を活かした地域社会の発展を目指し取り組んでおります。新たな施設、交通による町の発展と、ご高齢者を敬い、子どもたちの未来に責任を持つ町政の実現を念頭に、町民主役の自治体を目指してまいります。



## 事例発表 ②

### 夢を持つ大切さ、目標に向かって 頑張る大切さを伝えること

埼玉県桶川市 スポーツ振興課課長 小島 輝夫 氏

桶川市は、以前よりスポーツ振興事業として、ニュースポーツ教室や大会などのイベントを企画・開催してきました。しかし指導者を招くことなく行っていたことから、事業がマンネリ化しており、この状況を改善し新たな事業とするために、平成28年11月30日に日本体育大学と「体育・スポーツ振興に関する協定」を締結するに至りました。その際松浪理事長には、「協定を締結することだけが目的ではない」とさまざまな分野での連携事業を提案していただき、この話をきっかけに、他の自治体へのスポーツ指導者の派遣などを行ってまいりました。また2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けたボランティアスタッフの要請や、桶川市教職員に対するスポーツ

研修などは、来年度も同様に実施していきたいと思っております。特に重要と捉えているのは学生との交流です。学生がスポーツ振興事業に参加することで、現場の雰囲気が変わります。これは学生にとっても、将来の就職に向けた良い経験だと見聞きしています。すべてのスポーツ振興事業の共通点は、夢を持つ大切さ、目標に向かって頑張る大切さを伝えることではないでしょうか。日本体育大学との連携から生まれた、メダリストによる講演や実技指導に参加した子どもたちからは「勇気をもらった」「目標に向かって頑張りたい」など、素直な感想をいただきました。今後も学生やその保護者のみならず、桶川市に住むみなさまとの交流を活発にし、日本体育大学との協力連携への理解をより深めていきたいと思っております。

## 事例発表 ①

### 日本体育大学との協定締結で、 スポーツを行う成人の割合を60%以上に

山口県岩国市 スポーツ推進課課長 藤本 浩志 氏

岩国市は、広島県と島根県に隣接し、美しい自然に囲まれ、近代工業が発達した土地です。錦帯橋と傍に広がる吉香公園、幕末維新の志士ゆかりの地など数々の観光名所があり、人気の日本酒「獺祭」など美味しい酒が造られていることでも知られています。現在岩国市では「スポーツで岩国を元気に」を掲げ、週1回以上スポーツを行う成人の割合の目標を60%以上としております。また3つの柱として、「観るスポーツ」「支えるスポーツ」「するスポーツ」を推進しており、明確な2つの課題を掲げています。1つ目の課題は、障がい者へのスポーツ推進。「いつでも・どこでも・誰でも・いつまでも」気軽にスポーツに関われるよう支援を促進しています。2つ目の課題は、スポーツ環境整備で、施設の拡充と維持・管理に努めています。加えてスポーツを支える指導者やスタッフの充実も大変重要と考えております。

そこで同じく日本体育大学と協定を結んでいる呉市と合同で、児童・生徒を派遣し、各種プログラムを実施しました。次世代を担うジュニア層の競技力向上を図るため、日本体育大学相撲部と交流を実施。トップレベルの指導者・選手からの実技指導や講話によって、より一層のレベルアップを図ることができたと考えております。来年度も日本体育大学のみなさまにご協力をお願い申し上げております。



## 協賛企業説明

### 医薬品開発のノウハウを活かした商品で、 熱中症対策に貢献する

大塚製薬株式会社 ニュートラシューティカルズ事業部 東京支店所長 堀場 和夫 氏

大塚製薬株式会社は、「Otsuka-people creating new products for better health worldwide」を掲げており、この言葉のなかには、自らの手で独創的な製品を創り、世界の人々の健康に貢献していこうという意味が込められています。私どもが持っている医薬品開発のノウハウを使い、健康に関する社会貢献ができればと、日本体育大学とスポーツ・健康分野における事業協力で包括的な連携を図る協定を締結しました。「ポカリスエット」はスポーツなどの汗をかくシーンで失った水分・電解質を速やかに補給できる飲料です。熱中症対策として、全国中学校体育大会やインターハイ、また国民体育大会などで配布しており、最近では高齢者の水分補給など、テーマを拡大して情報提供を行っています。「カロリーメイト」は栄養バランスや体重管理が重要なアスリートに受け入れられ商品化されました。

今やスポーツだけに留まらず、仕事や勉強中の栄養補給や、災害備蓄として企業、学校、各自治体にご採用いただいております。それ以外にも、学校での食育教育の推進活動や、企業での生活習慣病対策、メンタルケアなど、いろんな情報を発信しながら意見交換をさせていただいております。今後もより健康的でアクティブになれる製品を提供できるよう、科学的な根拠をベースとした、独創的な製品の開発を行ってまいります。



## 学長挨拶

### 活力に満ちた社会創生に向け、 自治体との交流をより能動的に進めていく

日本体育大学 学長 具志堅 幸司

本学は体育の単科大学としてその歩みを進めてきましたが、2013年度には児童スポーツ教育学部を開設し、小学校教諭になる道を整えました。翌2014年度には保健医療学部を設けて整復医療学科と救急医療学科を配し、柔道整復師や救急救命士など医療の領域への扉を開きました。さらに2017年度にはスポーツ文化学部、2018年度にはスポーツマネジメント学部を開設し、現在5学部9学科、大学院には3つの研究科に4つの専攻、学生数7,200名を超える大学となりました。

学部が増えた分、より多くの学問の査定を請け負うため、見解を示す上でも自治体のみならずと共に関係が深まるのは、なお良いことと感謝しております。

今年度は協定に基づき、92件の連携事業が行われ、63件に本学の教員が直接出向きました。そのなかで「子どもに夢を、高齢者に健康を」というキャッチフレーズのもと、各自治体と体育・スポーツに関する協定を結んでいます。本件は、引き続き深く突き進んでまいります。



## 2018年度の活動例



## 懇親会



## 締結自治体 (全国55の自治体)

※締結順に掲載 平成30年11月22日現在

美作市 (岡山県)	島原市 (長崎県)	三種町 (秋田県)	徳之島町 (鹿児島県)	常総市 (茨城県)
愛知県	中間市 (福岡県)	みなべ町 (和歌山県)	岩国市 (山口県)	大子町 (茨城県)
紀の川市 (和歌山県)	氷見市 (富山県)	守山市 (滋賀県)	岩美町 (鳥取県)	藤井寺市 (大阪府)
泉佐野市 (大阪府)	神崎町 (千葉県)	厚木市 (神奈川県)	品川区 (東京都)	都城市 (宮崎県)
北山村 (和歌山県)	上越市 (新潟県)	南魚沼市 (新潟県)	笠間市 (茨城県)	市川三郷町 (山梨県)
小菅村 (山梨県)	大山崎町 (京都府)	海士町 (島根県)	狭山市 (埼玉県)	北杜市 (山梨県)
網走市 (北海道)	勝山市 (福井県)	男鹿市 (秋田県)	中山町 (山形県)	米沢市 (山形県)
江南市 (愛知県)	呉市 (広島県)	可児市 (岐阜県)	別府市 (大分県)	三重県 (地域連携部)
駒ヶ根市 (長野県)	柳井市 (山口県)	東松島市 (宮城県)	宮古市 (岩手県)	新潟県
七尾市 (石川県)	阿南市 (徳島県)	小田原市 (神奈川県)	始良市 (鹿児島県)	鳥羽市 (三重県)
志賀町 (石川県)	中標津町 (北海道)	香美町 (兵庫県)	桶川市 (埼玉県)	当別町 (北海道)

学校法人日本体育大学を軸としたネットワークを構築し、  
地域を活性化することで、幅広く社会に貢献していきます